

評価結果概要表

作成日 平成 22 年 3 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0570708297号
法人名	イウ ケンユウカブシキガイシャ 伊藤健友株式会社
事業所名	グループホーム湯沢四季の里
所在地	湯沢市西新町9-7 (電話) 0183-72-2735
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成22年2月3日

【情報提供票より】 (平成22年1月18日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 (常勤 8 人 非常勤 2 人 常勤換算 8.4 人)

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての ~ 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,600 円	その他の経費(月額)	円
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無		
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護 1	3 名	要介護 2	5 名
要介護 3	1 名	要介護 4	0 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 75 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	雄勝中央病院、守口歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

自由気ままにゆっくりと、自然な創意工夫で喜びと幸せを感じさせることを指針に掲げ、家庭的で安心と安らぎを与え、心のケアに努め、愛情をもって支援することを理念としている。
事業所は小規模多機能型居宅介護事業所を併設し、双方の職員が出勤退勤時に利用者といさつを交わすなど普段から関わり、利用者と職員とで「井戸端会議」を実施して意向や要望を把握したり、認知症緩和ケアである「タクティールケア」の実践により利用者とのコミュニケーションを大切にしながらケアにあたっている。
法人代表者が職員一人ひとりと面談して目標を定め、職員が自己診断シートを活用して自己評価しているほか、他事業所職員との交流研修を通じて互いの実践を学ぶなど、職員の質の向上をめざして組織的に取り組んでいる。
また、管理者が認知症サポーターの養成に携り認知症の理解に努め、年間計画に基づいた運営推進会議の開催、地域のボランティアが主催するサロン活動への参加を予定しているなど、地域に根ざした事業所をめざし、利用者が地域の一員として共に生活できるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価結果を基に職員全体で検討し、ケース記録等書式の見直しや利用者の思いや意向の把握に努めているほか、利用者の重度化に伴う事業所の方針を明確にするなど改善につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが自己評価に取り組み、その結果を全体会議で検討のうえ一つにまとめており、外部評価結果についても全体会議で検討しながら見直しや改善につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	年間計画に基づき定期的に会議を開催し、毎回テーマを設定して意見交換しており、終末期ケアの共有やボランティア主催のサロンへの参加を検討するなど、地域に根ざした事業所としての取組みにつなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情相談箱を設置し、家族の面会時や行事などの際に意見や要望の把握に努め、家族が納得できるよう丁寧に説明しながら対応している。 今後は、相談箱の設置場所などの工夫とともに、意見や要望を述べやすい環境づくりに努めてほしい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して地域行事に参加し、近隣住民による除雪や見守りなどの協力体制があるほか、地域のボランティアが主催するサロン活動への参加も予定しており、地域密着型サービスとしての活動に取り組んでいる。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自由気ままに急がずゆっくり、そして自然に形式に囚われない創意工夫で、喜びと幸せを〜)という指針の下、利用者がどのような生活を望んでいるかを聞き取り、ありのままに安心して地域の中で生活できるよう支援をおこなっています。			系列の小規模多機能型居宅介護事業所の開設に伴い地域密着型サービスとしての理念を改め、自由気ままにゆっくりと、自然な創意工夫による支援を指針とし、温かで家庭的な環境づくりと地域の中で安心した生活を送ることを理念に掲げている。	○	事業所のパンフレットに見直す以前の理念を示しているため、関係書類などへの掲示について整理のうえ統一してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各会議などの話し合いの際に、理念を確認共有している。職員は理念を常に理解意識しており、日常業務に取り組んでいます。	○	来訪者、関係者、地域の方々へも理解を深められるように機会を作りたい	玄関に理念を掲示し、ミーティングや会議の際には職員が唱和して共有しており、常に意識しながらケアにあたっている。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に掲示している理念について説明を行い家族や地域の人々の理解を深める	○	来訪時や運営推進会議を通し理念や実践に向けていく方向で考えている。			
2. 地域との支えあい								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の人々に行事の誘いをしたり防災訓練等の協力を定期的に声掛けし活動を紹介したり、ホームの存在の理解を深められるよう関係作りをしている					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内や地域との交流を促進するため、ホーム行事の案内や広報を配布したり、お祭り準備や避難訓練などの折には、町内会や近隣住民からの協力を得ています。また、七夕祭りなどの地域行事に参加しながら、地域住民との交流に努めています。		積極的に地域の活動を耳に傾け交流を深めていきたい	町内会に加入し、七夕等の地域行事へ参加して交流しており、近隣住民による除雪や見守りなどの協力体制もある。 また、月2回のボランティア訪問を受けてレクリエーションを行い、管理者が認知症サポーターの養成に携り認知症高齢者の理解に取り組んでいる。	○	ボランティアグループ「ほっとする会」主催のサロンに利用者を参加させたいと考えているため、今後も利用者と地域との関わりを増やせるよう積極的に取り組んでほしい。
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域行事、ホーム行事に参加しやすい雰囲気を作り心にかけている。キャラバンメイト講習会や認知症の勉強会など地域住民も視野に入れた活動も行なっている。					
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所の全職員が関わって自己評価に取り組み、外部評価が具体的なサービスの一層の改善につながるよう、評価を日々の業務の改善や反省として取り組んでいます。			職員一人ひとりが自己評価を行い、その結果を全体会議で検討しながら取りまとめている。 また、外部評価結果については職員間で検討し、見直しや改善につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間開催計画を決めている。会議では、毎回テーマを決め、話し合いを行っており、地域他職種協働を意識し、テーマに沿った参加者を招きながら、忌憚のない意見交換により、サービスの質の向上に努めています。テーマについても、具体的なサービスの取り組みについて取り入れていく。			年間計画に基づき2か月毎に開催し、毎回検討テーマを決めて意見交換を行うなど、事業所運営及びサービスの向上に反映させるよう努めている。	○	外部評価結果を報告し、課題を検討テーマに盛り込みながら意見交換するなど、課題の解決に向けて効果的に会議を活用してほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市担当者が参画し、会議の都度話を持っているほか、各種届け出及び、申請代行など、行政手続も日常的に行なっており、運営上に関して相談等をしながら、サービスの質の向上に生かしています。			事業所の広報を定期的に送付しているほか、生活保護受給者など利用者に関する各種届け出や申請代行を行政担当者と相談、連携しながら支援している。 また、管理者が認知症サポーター養成に携わるなど、地域包括支援センターと連携しながら地域の認知症に対する理解に努めている。		
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度に必要なれば対応している。研修についても参加するようにしている。権利擁護に関しての理解不足もあり、ホーム内での研修を継続していく。		権利擁護に関しての理解不足もあり、ホーム内での研修を継続していく。			
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての紙面を掲示したり、個々のスタッフに配布したり防止に取り組んでいる。個々に話し合いを持ち、スタッフ間で話し合いをもっているが、見解の違いをならしていく。					
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を理解いただけるまで繰り返し、不安や疑問を解消していけるようにしている。家族の不安を聞き取りやすい雰囲気作りをしている					
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「井戸端会議」を設け、利用者の意見がサービスに反映することの出来る機会を設けている。	○	ボランティアの方など第3者の意見等取り入れて行きたい。			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回四季の里通信を送付し、近況やホームの状況等を伝えています。金銭管理については、毎月出納帳と領収証の写しを家族に送付しています。定期的に面会の際は収支の確認とサインを頂き、遠方の方であれば郵送にて確認いただいている。			毎月「四季の里」通信を発行して事業所の行事などを報告し、利用者一人ひとりの健康状態や生活の様子を担当者が書き加えて詳細を伝えているほか、金銭管理状況についても面会時や郵送等で報告している。 なお、「四季の里だより」を年2回発行し、地域や行政等にも配布して情報提供に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用開始時の苦情受付は担当、市、県への連絡先を必ず伝えている。面会時及び受診の際意見や意向、要望を聞きながら内容を記録し、会議等で話し合い都度家族へ報告を行い運営業務に反映させています。		苦情や不満、意見等の受付や処理について公表の方向で考えて行きたい	玄関に苦情相談箱を設置し、面会時や行事、会議などの際に家族の意見や意向を確認するよう努めている。	○	意見箱の中身が見えないよう工夫し、他人の目に付かない場所に設置するなど、利用者及び家族が意見や要望を述べやすい環境づくりに配慮してほしい。
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営改善に向けた取り組みは業務の管理部、栄養部、健康部として各レベルで行なわれ意見・提案を出し合う機会があり、スタッフの意見や提案は反映されている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	月3回まで希望休を取ることが出来る。その他にも家族やスタッフの状況に応じやすい勤務調整をしている。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は併設しているダリアの里との間で、年1名程度あり、移動や新採用時のスタッフがなれるまでには時間もかかり一律ではないので、そのスタッフにあった個別の対応を行なっている。出勤・退勤時等に双方の職員が利用者へ挨拶を行なうなど、コミュニケーションを図っています。			併設の小規模多機能型事業所との異動があるが、双方の職員が出勤退勤時に利用者といさづつを交わしたり、昼食の検食に訪れるなど普段から顔を合わせて馴染みの関係づくりに努めている。 また、新任職員には経験ある職員が組み、一定期間を利用者と接するなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のスキルや意向に応じた外部研修に積極的に参加できるよう体制を整えており、職員が外部研修に参加して、内部での復命報告を行ったり、新任者研修として3ヶ月間行ったり、スタッフの個別の段階に応じた研修・トレーニングを継続的に行なうなど、職員育成の取り組みをしています。			法人代表者と職員が面談して一人ひとりの目標を設定し、自己診断シートにより職員が自己評価を行うなど組織として職員の育成に努めている。 また、経験年数や希望などに応じて外部・内部の研修計画を立て、計画的にスキルアップできるよう努めている。	○	職員一人ひとりの目標を設定しているため、さらに将来のビジョンや必要な知識・技術を明らかにし、そのうえで研修計画に反映させるなど段階的に向上できる仕組みづくりを検討してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員は、地域のグループホーム有志職員や顔見知りのケアマネージャーとの情報交流に積極的に参加しているほか、電話での情報交換も常時行っており、他事業所の実践や取り組みを学んでサービスの質の向上に取り組んでいます。			県及び圏域の連絡協議会に加入し、管理者及び職員が定期的に他事業所との情報交換や交流を図っている。 また、職員は他事業所との2日間の交流研修を実施し、互いに実践を学びながらサービスの向上につなげている。		
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1度の運営者との個別面談や不定期に行なう講話や3ヶ月に1回開催される全体会議での意見交換など、職員の意見を聞けるように配慮している。会社の社是にあるように、感謝・報恩を職員全体で浸透するように努めている。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は遠方であるが、毎日の業務日誌、管理者業務日誌をFAXにて確認し、勤務状況の把握やなにか問題や変化があればすぐに連絡をくれるなど、現場の状況を把握し、密に連絡を取っている。					
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の言葉に耳を傾け、初期利用者とのラポール形成が早め出来るよう、不安や本人の困っていることを解決できるように取り組んでいる。予め問題点がはっきりしていれば介護計画にも盛り込んでいる。					
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族等の困っていること不安等を良く聞き、受容できる機会を作れるように努力している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入所が適切かどうか見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	家族と本人の理解を深め、サービス開始前に十分説明し、利用可能な雰囲気を作り上げた上でサービス開始している			職員が事前に自宅を訪問し、本人の生活状況や生活史の把握に努め、担当ケアマネジャーと共に情報交換している。 また、必要に応じて利用者及び家族が事業所を見学し、事業所の雰囲気などを体感し、納得したうえでサービス利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人一人の生活史を理解して、得意なことを尊重し、話し合うこと、傾聴することに重きをおき、利用者教わることがあるなど、互いに支え支えられる日常生活が送れるように努めています。			職員は漬物の漬け方や畑づくりなど利用者の知識や経験を教わり、日々の生活に生かしている。 また、以前に利用者が転倒したことを受け、食事の後片付け時には食器を職員が運び、利用者が台所で洗うなど共に支え合いながら過ごしている。		
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは家族と一緒に利用者本人を支えていく関係を築き、支え合う力を家族から引き出せるよう、また家族の意思も尊重している。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を理解しあい、より良い関係が保てるように支援している。					
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホーム入所により、なじみの場が途切れないように、家族や本人の意思を大事にしながら支援に努めている、受診についての協力も、つながりを持てるようにできるだけお願いしている。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の一人一人のかかわりを大切にし、孤立させないように、日々の状態を観察し、共に支えあうことが出来るように支援に努めている。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、通信などを送付したりして、必要があれば関わりを断ち切らないように心がけている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の聞き取りや、日常生活の会話の中で、思いや意向を確認し、本人への意向確認が困難な場合は、家族の援助により出来る限り、本意に副えるよう、一人一人の思いを遂げることが出来るよう努めています。			認知症緩和ケアである「タクティールケア」を取り入れ、利用者と一緒にスキップを図りながら思いや意向の把握に努めている。 また、前回評価結果を受けて申し送り簿や計画実施表等の記録用紙の改善に向けて検討し、記録の徹底に努めている。		
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン、アセスメントをするとき、これまでのサービス利用の経過等を把握できるように努めている。					
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当ケアマネを中心にバイタルや生活を総合的に把握できるように努めている。本人に適した記録用紙にし現状把握している。					
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者及び家族の意向を確認し、管理者、計画作成担当者及び職員が、ケア会議等にて話し合いながら、利用者本意の介護計画を作成しています。			利用者の担当職員が情報収集を行い、アセスメントシートに基づいて計画作成担当者が計画を作成し、ケアカンファレンスで意見を出し合いながら確定させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書の期間に応じた見直しのほか、状態変化に伴う見直しにおいても、本人、家族等と話し合いを行い、現状に即した新たな介護計画が作成されています。			基本的に3か月毎のモニタリングを実施して6か月毎に計画を見直しているが、担当職員の気づきや利用者の状態変化などに応じて利用者及び家族と話し合い、随時に計画の見直しにつなげている。		
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をもとに引継ぎ、実践結果(気づき)として残し、計画の見直しをしている。					
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の身体状況や要望に応じて、病院受診や外出が出来るよう配慮されており、柔軟に対応している。また、併設されてる隣の小規模との連携を図りながら、時々小規模にて入浴をしている。			馴染みの理美容院や帰宅時の送迎、通院介助など利用者及び家族の状況に応じて柔軟に支援している。 また、系列事業所の入浴施設を使用したり、看護師が兼務して医療面での充実に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員、ボランティア等を個別に連携を取り、協力を得ながら支援している。かかりつけ医の継続をしている。					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養や他事業所等へ入所希望された場合、必要な連絡、調整などを行なっていく。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて、総合的な支援や長期的ケアマネジメントを地域包括支援センターと協力して行なっている。					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の利用者のかかりつけ医に通院受診できるよう支援しているほか、緊急時や状態変化した折、かかりつけ医、薬局、歯科医へ随時連絡、相談、受診をおこなっている。利用者からの要望に応じて、協力医療機関等での受診・往診を受けられる体制をとっています。			利用者の状態に応じて、かかりつけ医への定期受診や往診などで健康管理に努め、結果を家族に報告している。 また、歯科による往診など、必要に応じて協力医療機関とも連携している。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の中でも認知症専門医が誰なのかを把握しながら、認知症治療の適切な支援を受けられるようにしている。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	なじみの看護スタッフや地域の看護スタッフと連携しながら、適切な健康管理を受けられるよう支援している。					
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は出来るだけ、早期に退院できるよう病院関係者との情報交換や相談に応じている。また、入院中も面会や洗濯物を取りに行きながら、安心した入院を送れるようにしている。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、本人や家族ならびにかかりつけ医、その他必要な関係機関で話し合いをしており、方針を共有し、状態にあった対応に努めている。			前回評価結果を受けて看取りに関する方針を共有し、利用者の重度化した場合は家族やかかりつけ医と話し合い、医療機関への入院や地域包括支援センターと連携しながら他施設の利用につなげている。	○	利用契約時に利用者及び家族へ事業所の方針を説明し、重要事項説明書への明記や同意書などの書類整備に努めてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化、終末期についてかかりつけ医との相談を密にし、ホームで出来ること出来ないことを家族と話し合い、できるだけ本人の負担軽減つながらようチームで取り組んでいる。					
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人家族にダメージを与えないように話し合いを段階的に持ちながら、不安を軽減できるように努力している。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉使いや対応は、個々を尊重した対応に努め、契約時に個人情報の使用について、同意承諾を得ている。職員間においてもプライバシー保護のための守秘義務を書面上にて約束している			誘導する理由を分かりやすく説明しながら声をかけ、行動を促し、丁寧な言葉遣いでの対応を心がけている。 また、職員は「守秘義務に関する同意書」を交わして利用者のプライバシー保護に努め、個人記録書類は書庫に保管して施錠管理している。	○	系列小規模多機能型事業所と同様に守秘義務に関する事項をパンフレットにも記載し、事業所内外へ方針を明らかにしてほしい。
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ本人の希望に添える様支援し、本人の理解度に応じた説明の仕方をするように心がけ、チーム全体で自己決定を支援している。					
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活をするため、利用者の希望を聞きながら、職員の都合に合わせて、マイペースで過ごせるよう支援している。			利用者一人ひとりのペースに合わせ、居室に自分の日課表を貼って生活の目安とする方など、自由に過ごしている。 また、利用者と職員とで2か月毎に「井戸端会議」を開き、行きたい場所や食べたい物などの希望を聴き、意見交換しながら活動や暮らし方に反映させている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望があれば、行きつけの店に通えるように支援している。また、出張してくる場合もあり、本人の希望に添う様に支援している。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の嗜好調査が行なわれ、食事提供している。準備や片付けも自然と利用者と職員がおこなっており、食材は旬の物を取り入れ、話題としながら、楽しんで食べています。			隣接する小規模多機能型事業所の栄養士が献立を立て、調理師が利用者の体調や嗜好調査に基づいて軟食やトロミなど工夫しながら支援している。 また、食材を話題し、口腔体操や口腔ケアに取り組み、時には外食に出かけるなど食事を楽しめるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望に出来るだけ添うように心がけている。状況に応じた食事形態、体調を考慮しながら提供している。					
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	一人一人の排泄状況に応じ、時間を決め、トイレ誘導し、少しでも失敗を減らせるよう努力している。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間はスタッフ側の都合で日中入浴していただいている。一人一人の健康状態にあわせ、入浴を楽しんでいる。入浴を断られる方もおられ、全身清拭などご本人の気の向く時間を見計らって行なっている。ダリアでの入浴も、気分転換として頂いている。			週2～3回の日中の入浴を基本としているが、利用者の希望や状況に応じて清拭、足浴などで清潔の保持に努めている。 また、隣接小規模多機能型事業所のジェットバスに入って楽しんでいる。	○	勤務体制など事業所側の都合による入浴となつていてと感じているため、夜間や回数など利用者の希望に柔軟に応えられる体制を工夫し、利用者本位の入浴環境を整えてほしい。
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠、休息を促すため、寝る前のトイレ誘導、夏場冬場は室温に気をつけながら、温度調節を行なっている。食事を取ったことを忘れ起き出す方へは、軽食を提供し満足頂き眠りについていただいている。					
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の下ごしらえ、食事の準備片付け、畑仕事、洗濯物たたみなど、一人一人の生活史や状況に応じて、役割や楽しみごとが継続してできるように、支援しています。	○	その人らしい生活が送れるよう、生活歴をよく知る為にも、家族の方へ協力してもらい生活歴への記入シートをお願いしていきたい。	洗濯物たたみや掃除機かけ、食事の後片付け、畑づくりなど利用者が負担にならない範囲で役割を担い、生活の中でそれぞれが取り組んでいる。 また、テレビやラジオ体操、習字、行事時にお酒を飲む方など、生活の中で気分転換できるよう努めている。		
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額預かり金(お小遣いとして)スタッフがお金を管理し、必要な時だけ自分で使えるようにしている。					
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気に合わせて近くの公園に散歩や買い物、イベントやお祭り見学に出かけ、出来る限り利用者の希望にあわせ、外出を支援している。			近くの公園への散歩や買い物など日常的に外出できる機会をつくり、「井戸端会議」で利用者が行き先を決めてドライブや温泉に出かけるなど工夫している。 また、利用者及び家族の希望等に応じて自宅への一時帰宅や外泊なども支援している。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人一人の利用者が希望するところへ出かけている(海など)あるいは家族と一緒に過ごせるよう連絡をとり外出の機会を作り、支援している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望であれば、いつでも電話や手紙のやり取りができるよう支援している。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるよう、訪問しやすい雰囲気作りを工夫している。					
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアに取り組んでいる。研修にてどこまでが身体拘束なのか見極め、話し合っている。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	鍵をかけることの弊害を理解しており、夏場はドアを開放して見守り支援している。			玄関にセンサーを設置し、安全のために施錠しているが、外出したい方には職員が付き添い、夏場には玄関を開放している。 また、2階トイレ前にモニターを設置し、夜間の危険防止にも努めており、近隣による見守りの協力も得ている。	○	前回評価結果でも課題としているが、玄関が職員の死角となっているため、できる限り事務室に職員が常駐して見守りを徹底するとともに、職員の不在時だけ一時的に施錠するなど、自然な環境づくりと鍵をかけないケアの実践を工夫してほしい。
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の所在や様子を確認し、安全に配慮している。2階のモニター設置し夜間のみ安全確認のため使用している。					
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁は調理時のみ台所におき、書庫にて管理、夜間は施錠している。洗剤等使用しないときは、目の付かない場所へ移動している。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態に応じた対応をするため、リスク管理し、マニュアル作成、スタッフで統一計り活用している。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	マニュアルに添った対応又、いざに供え定期的な講習をスタッフが受けるようにしている。					
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災管理者が計画を立て、毎月災害時に備え、夜間または日中想定避難訓練をおこなっているほか、年2回、総合防災訓練にて、町内会や近隣住民の協力を得ていざに備えている。			防災計画やマニュアルを作成し、地域住民や消防団の協力を得ながら毎月の避難訓練や年2回の総合防災訓練を実施している。 また、消火器やスプリンクラーを設置し、緊急災害時に備えている。	○	防災訓練への地域住民の協力は得られているため、今後はより具体的な役割を明確にし、緊急災害時における的確な行動や支援につながるよう体制づくりに努めてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に十分な説明と納得を得ていただき、利用開始後も起こりえるリスクについて、家族の理解を得るため話し合いの機会、連絡をしている。本人が抑圧感を感じない安全な暮らしが出来るよう配慮している。					
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	大きな変化が起こる前に小さな異変に気付き、早めに対応し記録に残し、情報共有化できるよう日々努めている。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法等についてスタッフ間で理解を深めるように努めているが、誤薬や飲みこぼしなどのヒヤリ・ハットがあり、二重三重のチェックをおこなっている。安定剤・眠剤による副作用を念頭に置き、チームまたは医療関係者と連携していく。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や症状の緩和につながるよう、朝一番に冷たい牛乳を飲んでいただいたり、身体を動かすようにしている。また、排便が一目でわかるよう表にし、排便確認は本人のみの訴えに寄らず、スタッフが直接確認している。					
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のブラッシング観察、口腔状態に応じた支援している。定期的に歯科医による検診、歯科衛生士による口腔の衛生指導、ブラッシング指導をしていただいている。					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士資格を持った職員が献立を作成しており、食事や水分摂取管理が必要な利用者については、都度記録に残し、利用者の状況に応じて、量・バランス・嗜好に考慮した食事提供をしている				系列小規模多機能型事業所の栄養士が献立を作成し、食事や水分摂取量を把握しながら適切な栄養管理に努めている。	○ 利用者一人ひとりの栄養摂取状況を把握しているが、利用者の状態に関わらず一人ひとりの摂取量を記録して残し、職員間で共有しやすい仕組みを工夫してほしい。
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルに従い、実行している。特に食事前の手洗いと、除菌の為食直前にお手拭で拭いていただく。外出時の手洗いうがいは必ず行なうようにしている。スタッフの健康チェック表で出勤時に体調管理を行なっている。					
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	エプロン三角巾を使用し調理に入っており、手洗いの徹底、衛生管理チェック表を活用し、調理者の体調管理また、調理用とトイレ誘導時のエプロンは必ず取り替えるようにしている。調理用具の衛生、安全な食材の購入とし、生食については当日購入し、提供している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすいように、玄関に利用者の似顔絵を貼ったり、花を飾ったりしている。靴を履くときに楽なように長いすを設置している。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節感のある飾り付けをしたり、リビング等共有部分には暖かみのある木製家具をおくなど、家庭的な生活空間作りに工夫・配慮している。音や臭い光に対しての不快を取り除き、快適に過ごせるよう努めている。			ホールや廊下にはソファや観葉植物を置き、習字などの作品を飾り、神棚も設置して家庭的な雰囲気を保っている。 また、窓が多いため全体的に明るく、エレベーターも設置して快適な環境づくりに努めている。	○	玄関が比較的職員の死角となっているため、法人本部とも相談しながら対策を検討してほしい。
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで一人になれたり、居室で過ごされたり、廊下にイスやソファを置いたり、一人一人が思い思い自由に過ごせるよう工夫している。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたなじみのものを自由に持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、位牌を持ってきている方もいらっしゃり、朝食前ご飯を上げていただく支援を行なっている。			畳の部屋にカーペットを敷いたり、使い慣れたベットや本棚、位牌や写真なども持ち込み、居心地良い生活空間づくりを支援している。 また、居室のドアを色で分け、写真やネームを設置して利用者が分かりやすいよう配慮している。		
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の好みに合った室温・湿度調整を行なっている。全室換気は朝夕に行なっている。					
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が安全で自立した生活を支援するように工夫している。エレベーター、手摺、トイレの場所を示す表示など、自立した生活を支援する工夫をしている。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の認知度に応じた環境作り、その人らしい生活が出来るよう努力している。居室の色分けをし、習慣に配慮している。					
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや畑も生活空間のひとつであり、活動できるようになっている。利用者の好きな花や植物を植えたり、野菜を植えて収穫する楽しみがある。					

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

独身寮を改築しての建物であり、一部バリアフリーでなく、階段を利用し昇降される方もおられ、下肢筋力維持につながっている方もおられる。100mほどのところにドラえもん公園があり、春は花見、天候の良い日は散歩コースとなっている。

小規模多機能施設との併設施設であり、併設施設ならではの連携、看護師、栄養士による専門職からの指導、介護福祉士(5名)、ヘルパー(3名)おり、勤務状況で専門的な知識のもと、入居者様の日常生活を支援している。朝・夕の各事業所スタッフの挨拶・顔出し、コミュニケーションやタクティールケアを目指し、取り組んでいる。

洗濯物のたたみや、食後の後片付けなど、習慣化したものについては今後も継続出来るように努力して行きたい。

ケアマネ自らも認知症についての理解を深める為、認知症ケア専門士取得、リスクマネージャーへの資格取得目指し、スタッフもスキルアップを目指し、資格取得に臨んでいる。

御家族へは毎月手書きで、ご本人のホームでの様子など詳細を手紙にして送っている。更に出納帳のコピーや印刷の写真を送付している。

近所の方からお花や野菜のおすそ分けや、地元の農家の方から新鮮な野菜の購入、近所の肉屋さんからの仕入れ、定期的なボランティアの来訪と地域に根ざしている。